

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	5月	14日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	井本	大谷	西田	三谷
	本井	横山			
取材対象先	奈良市：円成寺の春日堂・白山堂拝殿				

所在地	奈良市忍辱山町1273				
所有者(取材 対応者)名	円成寺・田畑祐弘住職(個人情報守秘)			連絡先 0742-93-0353	
				PCアドレス	
取材申込	申込先・行政名など： 円成寺				
市町村 指定文化財	彫刻	軀	名称(指定年月日)		
	建造物	1棟	円成寺春日堂・白山堂拝殿 附 棟札1枚 1990(平成2)年4月11日指定		
文化財指定理由	本建物は、円成寺の鎮守社である春日堂、白山堂(国宝)の拝殿で、棟札によって1675(延宝3)年に建てられたことが分かる。簡素で優美な意匠をもった上質な建物で、江戸時代初期の拝殿として貴重なものである。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	熱感知器(空気管)が本堂をはじめ主だった建物に設置されている。境内には放水銃の設備が確認できただけで3か所(楼門の横、本堂の奥、拝殿の横)設置されていた。消火器も設置。消防署も年1回点検に来ている。	国宝・重文などの文化財を多数有する寺で、防火対策はしっかりしている。住職も火災の怖さを十分に認識しておられ、防火に対する意識が高い。
獣害対策	被害はない。ただ、柱などに虫が穴をあけることがあり、薬等で駆除している。	特になし。
保存～継承 へ 苦勞と 今後の課題 と対策	明治維新によって本寺は多くの寺領を失い無住となった時期もあったが、明治末に田畑靈瑞師(住職の祖父)が入山して復興に尽力した。また、2代目住職は有房賢住師(現住職の父で、後に靈瑞師の養子となり田畑姓となる)で、昭和30年代に本寺と庭園の間にあった道路を現在の国道の位置に移設すべく尽力し、1961(昭和36)年に本堂の大改修を行っている。さらに、2023(令和5)年、本堂を全面改修して屋根の葺き替え等を行い、春日堂・白山堂も桧皮葺の屋根等の修復を行った。改修資金は、行政からの補助とクラウドファンティング等で集めて賄った。なお、以前は本寺の中にある寺にそれぞれの檀家があったが、現在は隣の大慈仙町を含めて40軒程度となっている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

国宝2件、重要文化財5件、県指定文化財2件、市指定文化財1件、名勝1件の文化財を保有する寺院だけに、行政の支援も厚いものがあると感じた。クラウドファンティングにおいても目標額を達成でき、特に海外(香港・台湾)からの援助が多い。また、国宝の大日如来は、現在は相應殿という建物内に安置されており、多宝塔には東京芸大の学生が作成した模刻の像が安置されている。住職は、そういったいろいろな縁を大切にしておられ、本寺の住職になったのも仏様のお導きがあったと強く感じておられ、2代目住職(賢住師)を尊敬し、直にいろいろなことを学んだ経験をお持ちである。そういうこともあって、次世代の人たちにも、机の上での勉強だけではなく、直に手足を動かして学ぶことがより大切で自分の身に着くものであると、若い人にもそれを期待していると仰っていた。また、我々が本堂に伺ったときに、ご住職自らが本堂の床の拭き掃除(雑巾がけ)をされておられ、そういった言動から本寺の保存継承への強い信念を感じた。

市町村指定文化財取材票〈裏〉

取材日	2024年	5月	14日	(記入者) 本井良明	
取材参加者	石井	井本	大谷	西田	三谷
	本井	横山			
取材対象先	奈良市：円成寺の春日堂・白山堂拝殿				

<写真撮影許可済>

文化財指定名 円成寺春日堂・白山堂拝殿 附 棟札1枚

文化財 (正面)	文化財 (西側)
	
文化財 (東側)	拝殿から見た春日堂 (左)・白山堂 (右)
	
文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入
<p>拝殿は、1675 (延宝3) 年の棟札 (附指定) があり、この時の建立と認められる。春日堂・白山堂の前方少し離れて建っており、桁行四間、梁間三間 (東側二間) 入母屋造。屋根は、1719 (享保4) 年の文書によると「柿葺」と記されているが、1883 (明治16年) の修理棟札により棧瓦葺に修理されたことが分かり、昭和になって鉄板葺となった。1990 (平成2) 年に奈良市文化財に指定された後、1992 (平成4) 年から1995 (平成7) 年にわたり解体修理を実施し、1675 (延宝3) 年の原形に復した。なお、春日堂・白山堂は、平安から鎌倉に建立された最古の春日造社殿として国宝に指定され、その構造は春日大本殿とほぼ同様である。</p>	<p>円成寺は、756 (天平勝宝8) 年に聖武・孝謙両天皇の勅願により虚瀧和尚が開創したと伝えられているが、史実的には1026 (万寿3) 年に命禅上人が十一面観音を祀られたのが始まりである。1112 (天永3) 年に迎接上人が阿弥陀如来を祀り、1153 (仁平3) 年に寛遍僧正が入山し東密忍辱山流を創始し、寺門が栄えた。応仁の兵火で主要伽藍が焼失したが、栄弘阿闍梨によって再興され、本堂・桜門が再建されて江戸時代には寺中23寺、寺領235石を有する寺院となった。明治維新後、多くの寺領を失い衰退して無住となったが、1882 (明治15) 年に盛雅和尚が入山して復興に着手し、さらに近年、本堂の解体修理、庭園の整備、多宝塔の再建を行い、寺観を整えた。</p>